

令和6年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査実施日 令和6年4月18日（木）

(2) 調査の対象

国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童

国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒

※ 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童生徒数 ・小学校 350名 ・中学校 371名

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学

② 質問調査（オンライン） 児童生徒に対する質問調査 学校に対する学校質問調査

2 各教科の平均正答率

(1) 小 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) ＜昨年＞	差(市一国) ＜昨年＞	差(県一国) ＜昨年＞
国 語	63.0	67.0	67.7	-4.0 ＜-1.0＞	-4.7 ＜-3.2＞	-0.7 ＜-2.2＞
算 数	58.0	61.0	63.4	-3.0 ＜-1.0＞	-5.4 ＜-4.5＞	-2.4 ＜-3.5＞

(2) 中 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) ＜昨年＞	差(市一国) ＜昨年＞	差(県一国) ＜昨年＞
国 語	54.0	57.0	58.1	-3.0 ＜-2.0＞	-4.1 ＜-1.8＞	-1.1 ＜+0.2＞
数 学	45.0	49.0	52.5	-4.0 ＜-1.0＞	-7.5 ＜-4.0＞	-3.5 ＜-3.0＞

3 浜田市の結果

(1) 各教科の学習指導要領領域別の集計結果概要

※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの

－：市と県の差が2ポイント未満のもの

△：市が県を2ポイント以上、下回るもの

① 小学校国語

学習指導要領の領域	対象設問数 14	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
言葉の特徴や使いに関する事項	4	60.1	64.0	-3.9	△
情報の扱い方に関する事項	1	84.0	86.1	-2.1	△
我が国の言語文化に関する事項	1	70.9	75.3	-4.4	△
話すこと・聞くこと	3	53.5	57.3	-3.8	△
書くこと	2	64.9	67.5	-2.6	△
読むこと	3	63.1	69.0	-5.9	△

② 小学校算数

※対象問題数の合計と各領域の問題数の合計が合致していないのは、1問で複数の領域を対象とする問題があるため

学習指導要領の領域	対象設問数 16	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	6	60.4	63.5	-3.1	△
図形	4	63.0	64.5	-1.5	－
測定	0				
変化と関係	3	40.6	46.0	-5.4	△
データの活用	4	58.2	60.2	-2.0	△

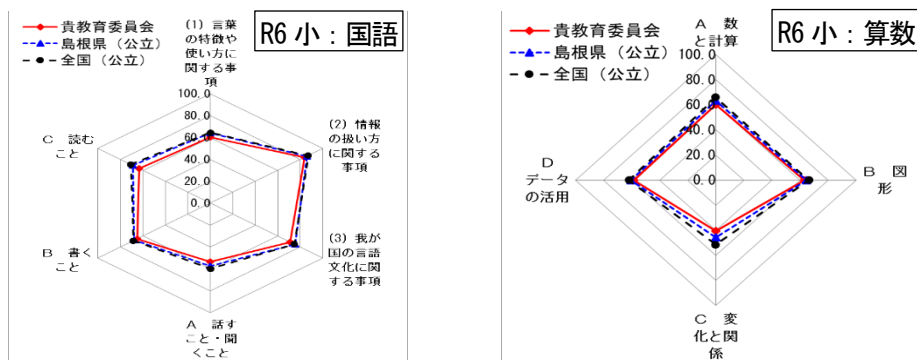
③ 中学校国語

学習指導要領の領域		対象設問数 15	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	3	53.9	57.2	-3.3	△
	(2) 情報の扱い方	2	57.3	58.5	-1.2	－
	(3) 我が国の言語文化	1	74.1	79.4	-5.3	△
思考力	A 話すこと・聞くこと	3	52.4	56.2	-3.8	△
判断力	B 書くこと	2	62.3	63.4	-1.1	－
表現力	C 読むこと	4	43.3	46.2	-2.9	△

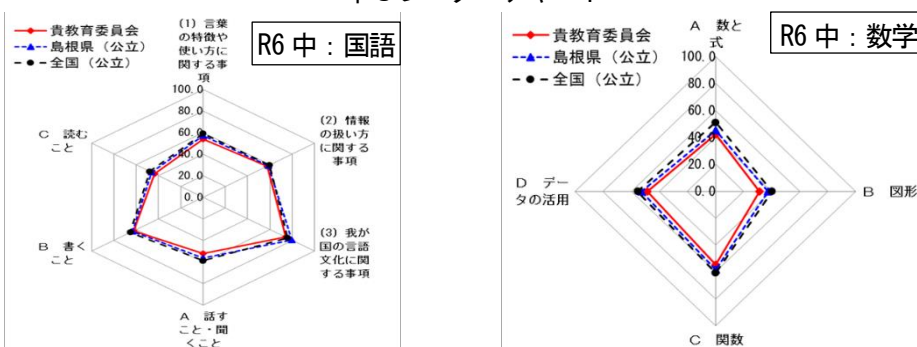
④ 中学校数学

学習指導要領の領域		対象設問数 16	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
数と式		5	42.1	45.1	-3.0	△
図形		3	31.3	37.7	-6.4	△
関数		4	54.7	58.3	-3.6	△
データの活用		4	48.6	52.6	-4.0	△

小6レーダーチャート



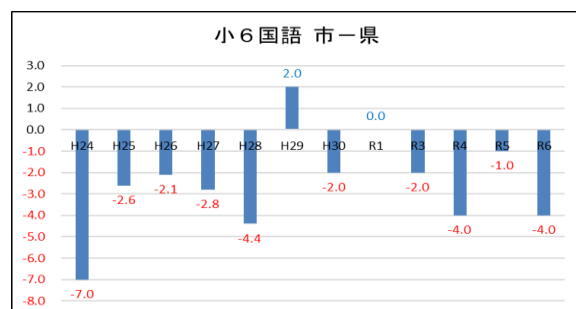
中3レーダーチャート



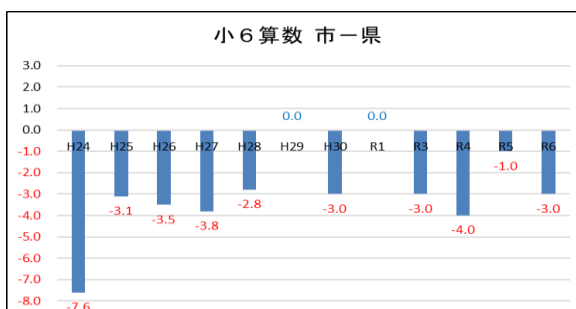
学習指導要領の領域別正答率の状況は、全国及び県の状況と同様の傾向を示してはいるが、特に、小学校国語の「読むこと」と算数の「変化と関係」領域及び中学校数学の「図形」領域において、課題が認められる。

(2) 平均正答率の県との差の推移

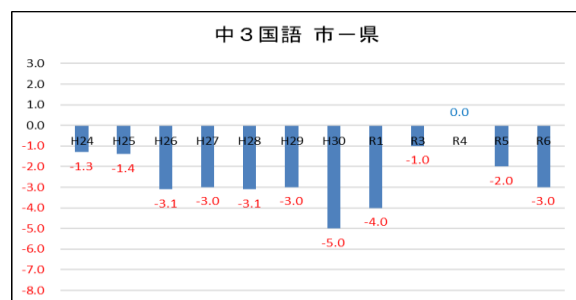
小6国語



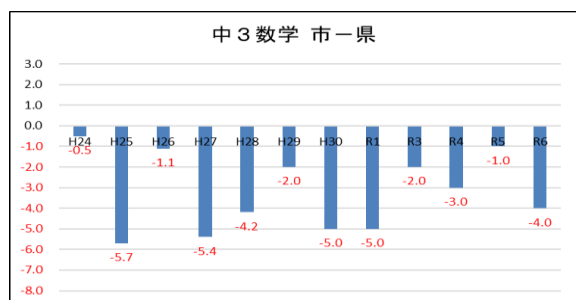
小6算数



中3国語



中3数学



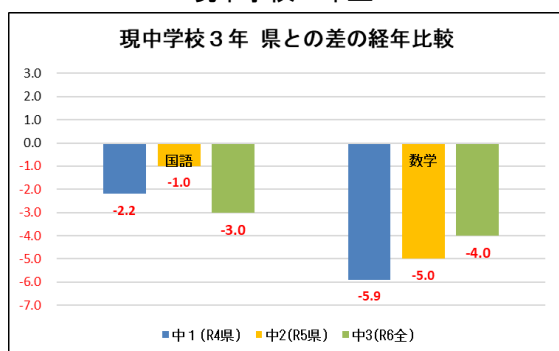
小中学校ともに前回調査よりも県平均正答率との差が広がった。特に中学校国語は令和4年度以降は下降傾向にあり課題である。

(3) 対象学年の平均正答率の県との差の経年比較

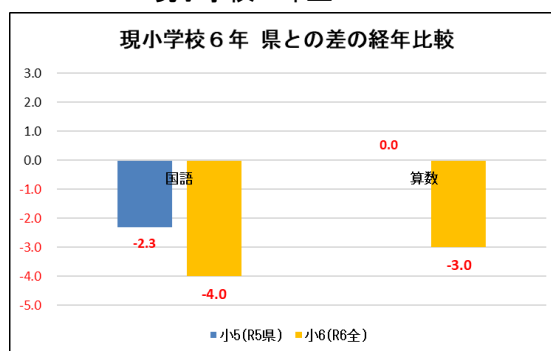
学年・学力調査 種別	国語	数学
R4県学力 (中1)	-2.2	-5.9
R5県学力 (中2)	-1.0	-5.0
R6全国学力 (中3)	-3.0	-4.0

学年・学力調査 種別	国語	算数
R5県学力 (小5)	-2.3	±0
R6全国学力 (小6)	-4.0	-3.0

現中学校3年生



現小学校6年生



中学校3年生は、数学において改善傾向が認められる。国語については、改善傾向にあったが今回の調査では県平均正答率との差が広がっている。小学校6年生については、国語、算数ともに5年生段階と比較して県平均正答率との差が広がっている。

(4) 問題形式別の県との差

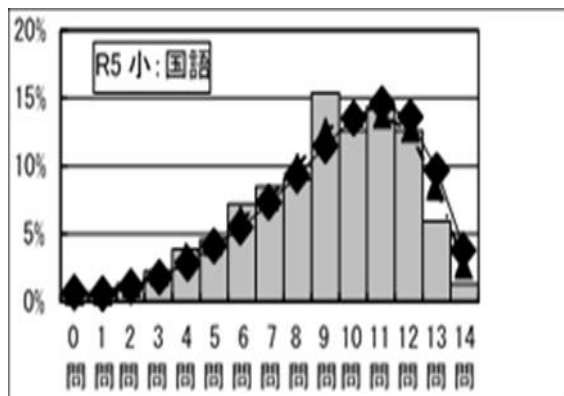
※ () 内の数値は令和5年度の県との差を表す

	小6国語	小6算数	中3国語	中3数学
選択式	-3.8 (-1.0)	-2.5 (-0.7)	-2.8 (-0.8)	-3.9 (-2.6)
短答式	-4.0 (-4.7)	-2.7 (-0.8)	-2.9 (-1.9)	-3.2 (+1.5)
記述式	-5.3 (-1.3)	-4.6 (-1.3)	-2.9 (-3.4)	-5.4 (-3.7)

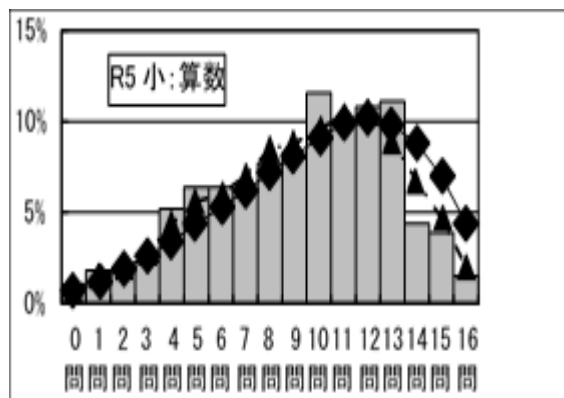
前回調査と比較して、小学校国語の短答式、中学校国語の記述式以外は、全ての問題形式において県との差が広がった。課題であった記述式については小学校で改善傾向にあったが、本年度調査では再び課題となっている。

(5) 正答率分布

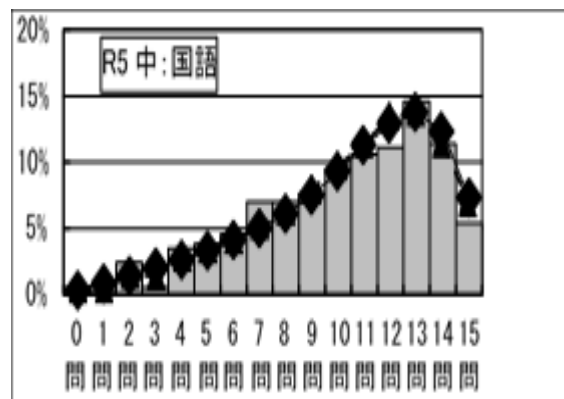
小6 国語 【令和5年度】



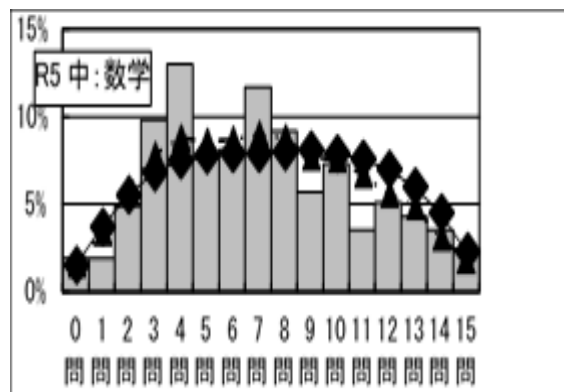
小6 算数 【令和5年度】



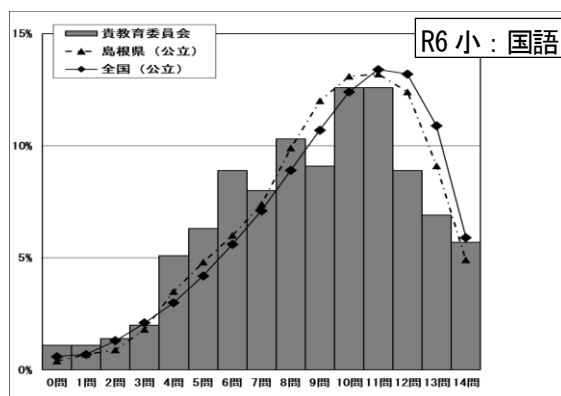
中3 国語 【令和5年度】



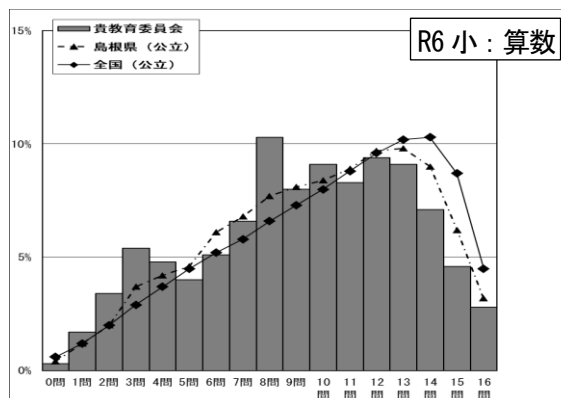
中3 数学 【令和5年度】



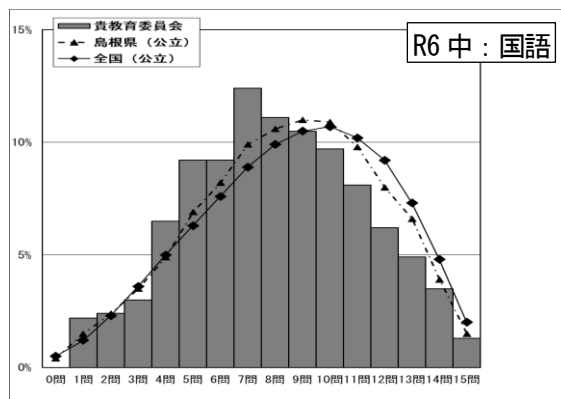
【令和6年度】



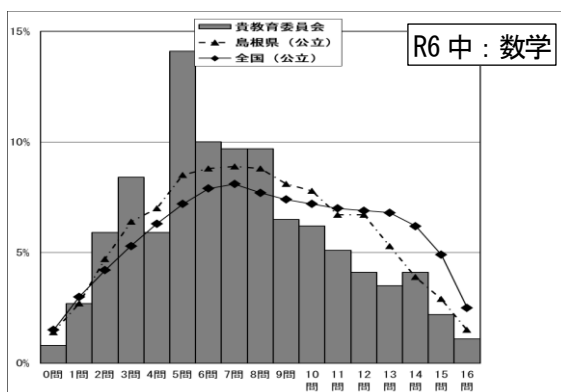
【令和6年度】



【令和6年度】



【令和6年度】



本年度の調査対象児童生徒については、小中学校共に全問正答者の割合は県とほぼ同程度ではあるが、高正答率者が少ないことは依然として課題である。

また、小中学校共に低正答率から中正答率までの層に入る児童生徒の割合の増加が認められる。低正答率者を中正答率層へ移行させていくことが必要である。また、中正答率者の高位層を高正答率層へ移行させていくことが必要である。

(6) 教科に関する結果の概要

① 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

県平均正答率と比較して上回っている設問の上位3設問（小学校国語については、差が小さいもの）及び下回っている下位3設問の状況は以下のとおりである。

【小学校国語】 ※（ ）内の数値は県平均正答率との差を、[]内の数値は全国平均正答率との差を表している

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域等
2一 (1)	79.7% (-1.6)	選択式 [-0.6]	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができかどうかをみる	書くこと
2一 (2)	84.0% (-2.1)	選択式 [-2.9]	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項
3一	60.6% (-2.4)	選択式 [-1.7]	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項
3三	64.3% (-6.9)	記述式 [-8.3]	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	読むこと
3二 (2)	66.3% (-5.4)	選択式 [-6.2]	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる	読むこと
3二 (1)	58.9% (-5.2)	選択式 [-8.0]	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	読むこと

【中学校国語】 ※（ ）内の数値は県平均正答率との差を、[]内の数値は全国平均正答率との差を表している

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
1三	43.7% (+0.5)	選択式 [-0.3]	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項
2一	34.5% (+0.1)	選択式 [-1.8]	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	読むこと

3一	79.2 (-1.0)	選択式 [-2.2]	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	書くこと
4三	74.1% (-5.3)	選択式 [-1.5]	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	我が国の言語文化に関する事項
2三	58.5% (-4.9)	選択式 [-6.0]	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	読むこと
3二	46.1% (-4.4)	選択式 [-7.7]	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項

【小学校算数】 ※ () 内の数値は県平均正答率との差を、[]内の数値は全国平均正答率との差を表している

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
3(2)	73.2% (+2.9)	選択式 [+1.9]	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	図形
5(4)	47.3% (+0.6)	短答式 [-2.0]	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	数と計算、データの活用
5(2)	72.4% (-0.1)	短答式 [-0.9]	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	データの活用
2(2)	54.7% (-10.8)	選択式 [-14.4]	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	数と計算
5(3)	41.1% (-6.6)	記述式 [-9.5]	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	データの活用
4(2)	59.3% (-6.3)	短答式 [-10.7]	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	変化と関係

【中学校数学】 ※ () 内の数値は県平均正答率との差を、[]内の数値は全国平均正答率との差を表している

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
------	-----	------	-------	-------	----

7(3)	45.4% (+1.2)	選択式 [-3.1]	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	データの活用
6(1)	90.5% (0.0)	短答式 [+0.3]	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	数と式
8(3)	74.3% (-0.7)	短答式 [-2.6]	結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	関数
9(1)	12.7% (-9.1)	記述式 [-13.1]	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	図形
4	54.1% (-8.5)	選択式 [-11.2]	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、 b の値を変えずに、 a の値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	関数
5	62.4% (-7.7)	短答式 [-10.7]	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	データの活用

② 国語について（成果（○）と課題（▲）、今後の指導のポイント（★））

小学校国語（6年生）

○ 県正答率との差は、-4.0P で昨年度より 3.0P 広がっているが、県正答率との差が 10.0P 以上の問題はなくなった。

▲ 全問題において、無回答率が、県や全国の無回答率より高い。

▲ 領域別では、「読むこと」に大きな課題がある。

中学校国語（3年生）

○ 県平均正答率を上回った問題は、「情報の扱い方に関する事項」（意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること）で1問、「読むこと」（文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈すること）において1問で、それぞれ+0.5P、+0.1P であった。

○ 昨年度において問題形式別の県との差が大きかった「記述式」について、若干の改善傾向がみられる（-3.4P⇒-2.9P）。

▲ 県平均正答率との差は-3.0P で、昨年度より 1.0P 差が広がっている。

▲ 理由や根拠を記述内容から捉える点について課題がある。

▲ 着目する内容を決め、必要な情報を適切に取り上げて要約することについて課題がある。

（条件を全て満たして回答した割合：35.0% 必要な情報の取り上げ不十分：41.2%）

★国語についての今後の指導のポイントとして

中学校における、全国平均正答率との差が小さいもの（-2.0P未満）と大きいもの（-6.0P以上）の状況は以下とおりである。このことは、国語における指導の方向性を示していると考えられる。

差が小さい（-2.0P未満）				差が大きい（-6.0P以上）			
P 差	領域	形式	問題No.	P 差	領域	形式	問題No.
-0.3	知・技	選択	1 三	-8.4	思・判・表 (書くこと)	短答	1 二
-1.5	知・技	選択	4 三	-7.7	知・技	選択	3 二
-1.8	思・判・表 (読むこと)	選択	2 一	-7.6	思・判・表 (読むこと)	記述	2 四
				-6.0	思・判・表 (読むこと)	選択	2 三

差が最も小さいものは全て選択式であり、それらの問題内容を見ると問題文の記述内容に基づかなくても図を見て選択できるもの、選択肢の文言を検討すれば回答できるものである。

一方で、差が最も大きいものは、問題No.（3 二）を除いて全て問題文の記述を理解した上で回答する内容となっている。

したがって、小学校段階から以下のような指導を行っていくことが大切である。

- ★ 目的に応じて、必要な情報に着目して要約する活動を重視する。特に授業場面においては、要約の視点を具体的に与える（例：「どのような違いがあると述べているかについて」）等の工夫をする。
- ★ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする場を授業の中に意識的に取り入れるとともに、「情報の扱い方」との関連を図った授業を工夫する。
- ★ 児童質問調査における、「国語の勉強が好きだ」の項目の肯定率が県と比べると-10.5P とかなり低い。また、学校質問調査においても国語の指導方法について「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことが出来るような指導」が-12.6P、「登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことが出来るような指導」が-11.2P で県との差が広がっている。

これらのことから、読解力育成研究指定校や学校図書館活用教育指定校の取組への支援を充実させ、その取組の成果を各学校に広げていく。さらに、要約学習や調べる学習を各小中学校で取り組めるようにしていく。

③ 算数・数学について（成果（○）と課題（▲）、今後の指導のポイント（★））

小学校算数（6年生）

- 教科書の問題形式に近い形の問題については、県と同程度の正答率のものが比較的多い。
- 児童質問調査において「算数の勉強は好きである」と肯定的に回答した児童の割合は 55.2% で、県平均を上回っている。また、昨年度よりも 4.4P 上昇している。
- 児童質問調査における以下の質問に肯定的に回答した児童の割合の増加から、算数科における授業改善が進んでいることが認められる。

質問内容	R4 肯定率	R5 肯定率	R6 肯定率
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	88.0	89.9	90.9
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	54.2		71.8
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	71.5		77.9

- ▲ 平均正答率の県との差が-4.0P と、前回 (-1.0P) から広がった。
- ▲ 領域別正答率では、「変化と関係」領域に課題があり、3問すべてにおいて全国の平均正答率を10P以上下回った。
- ▲ 具体的な場面と数学的な表現（特に式）との関連付けができていない児童が多い。
- ▲ 得られた解を問題場面に当てはめて、妥当性を判断することに課題がある。(4(2)、4(4)など)

中学校数学（3年生）

- 対象学年の平均正答率の県との差の経年比較によると、中学校1年時及び中学校2年時の県学力調査から改善している。(中1：-5.9P ⇒ 中2：-5.0P ⇒ 中3：-4.0P)
- 選択式、短答式の問題における無解答率は、県よりも低いものがほとんどである。
- ▲ 平均正答率の県との差が-4.0P と、前回 (-1.0P) から広がった。また、全国との差も-7.5P と非常に大きい。
- ▲ 領域別正答率では、「図形」領域において県との差が最も大きかったが、全体的に課題が見られる。
- ▲ 記述式の問題における無解答率は、県よりも高いものがほとんどである。また、記述式の問題5問のうち、3問で無解答率が30%以上と非常に高かった。

★算数・数学についての今後の指導のポイントとして

○小学校における課題があった問題～2(2)～

(2) あやのさんたちは、350 kgの米を1人に同じ重さずつ配ると、何人に配ることができるかについて考えています。

あやの
1人に7 kg ずつ配る場合を考えます。
 $350 \div 7 = 50$
50人に配ることができます。

はやて
1人に0.7 kg ずつ配る場合を考えます。
何人に配ることができるのでしょうか。

350 kgの米を1人に7 kg ずつ配る場合と、1人に0.7 kg ずつ配る場合を比べると、どのようなことがいえますか。
下の 1 と 2 と、 3 と 4 の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

350 kgの米を1人に7 kg ずつ配ると、50人に配ることができます。
1人に0.7 kg ずつ配るとき、配ることができる人数は、
50人より 1 多い 2 少ない です。

$350 \div 7 = 50$ です。
 $350 \div 0.7$ の商は、50より 3 大きい 4 小さい です。

	正答率(県比)	市(県)反応率	3と解答	4と解答
浜田市	54.7(-10.8)	1と解答	54.7(65.5)	27.1(18.2)
島根県	65.5	2と解答	8.3(8.3)	5.7(5.7)
全国	69.1			

正答 1 と 3

○配る量を、7kgから0.7kgに変更すると配れる人数が50人より多くなることは県と同程度理解できている。
▲ただし、それが式や商の意味と関連付いていない。

○中学校における課題があった問題～4～

4 一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて考えます。下の図の直線 ℓ は $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフです。直線 ℓ に対して、 $b = 1$ を変えずに a の値を1より大きくしたときのグラフが、直線アからエまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

正答 イ

	正答率(県比)
浜田市	54.1(-8.5)
島根県	62.6
全国	65.3

タブレット等で実際に操作する中で見いだしたことを表現する活動が不十分

以上のような課題を克服するために、以下を今後の指導のポイントとして学校訪問等を通して周知を図り、授業改善を進めていく。

★重点としている「数学的活動の充実」による授業改善の推進

- ・ 「たくさんやる」～児童生徒の活動場面を保障する授業～
- ・ 特に問いを見いだす活動や、得られた結果を吟味したり統合的・発展的に考えたりする活動の充実～必要に応じて一人一台端末も活用しながら～
- ・ 「具体的な問題場面と数学的な表現」や「数学的な表現間」の関連付けの重視
- ・ 他者の表現を参考に自分の考えを表現したり練り直したりする活動の推進
- ・ 指定校における実践の成果の普及

(7) 児童生徒質問調査及び学校質問調査（校長の自己評価）結果及び今後の取組の方向性

ここでは、児童生徒質問調査で注目をしている質問項目を挙げている。また、学校質問調査においては、授業改善に関する項目を挙げている。

なお、「普段、1日当たり2時間以上テレビゲームをしますか（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）」等のメディア接触関係については、昨年度は質問項目から削除されたため、令和4年度の数値としている。

＜児童生徒質問調査結果＞

※（ ）内の数値は、県肯定率との差を表し、下線は前年度より改善したことを示している

質 問 項 目	小学校6年生		中学校3年生	
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度
自分には、よいところがあると思いますか	73.9 (-7.2)	<u>76.3</u> (-7.6)	85.2 (+4.1)	83.1 (+0.5)
将来の夢や目標をもっていますか	73.9 (-4.8)	<u>79.8</u> (-2.1)	66.5 (-0.1)	<u>67.3</u> (+1.6)
普段、1日当たり2時間以上テレビゲームをしますか（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム含む）	58.3 (+6.9) R4の数値	56.6 (+7.4)	51.6 (+6.1) R4の数値	<u>44.2</u> (+0.9)
普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	32.7 (+3.0) R4の数値	35.6 (+4.4)	45.6 (+0.5) R4の数値	53.6 (+3.2)
学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強をしていますか	50.5 (-3.4)	47.3 (-4.4)	46.7 (-5.5)	<u>47.0</u> (-4.0)
授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	66.6 (-7.4)	<u>73.2</u> (-7.3)	77.0 (-3.6)	<u>78.3</u> (-4.4)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	71.8 (-5.5)	<u>79.5</u> (-5.4)	80.7 (-1.7)	<u>87.2</u> (+0.3)
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	67.3 (-5.8)	<u>80.4</u> (-3.6)	75.9 (-2.3)	<u>87.4</u> (+1.5)
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	63.8 (-5.2)	<u>80.3</u> (-2.5)	70.5 (-2.7)	<u>77.2</u> (-4.6)
国語の勉強は好きですか	61.2 (+1.3)	48.9 (-10.5)	67.6 (+7.1)	63.5 (+0.3)
算数・数学の勉強は好きですか	50.8 (-3.6)	<u>55.2</u> (+0.1)	57.4 (-0.9)	44.5 (-11.3)

授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用しましたか	51.7 (+7.8)	31.2 (-14.7)	9.1 (-24.7)	<u>34.0</u> <u>(-6.0)</u>
----------------------------------	----------------	-----------------	----------------	------------------------------

＜学校質問調査（校長の自己評価）結果＞

※（ ）内の数値は、県肯定率との差を表し、下線は前年度より改善したことを示している

質 問 項 目	小学校		中学校	
	R5年度	R6年度	R5年度	R6年度
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	93.8 (+19.8)	78.5 (-4.1)	66.7 (+1.8)	37.5 (-25.3)
個々の教員が、自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している	68.8 (+2.5)	<u>71.4</u> <u>(-6.1)</u>	22.2 (-41.7)	<u>75.0</u> <u>(-0.6)</u>
児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	87.6 (+5.5)	<u>92.8</u> <u>(+7.6)</u>	100 (+24.8)	75.0 (+0.5)
学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるような学習課題や活動を工夫している	81.3 (-10.5)	<u>92.8</u> <u>(+2.1)</u>	88.9 (-7.0)	<u>100</u> <u>(+5.3)</u>
学級生活をよりよくするために、学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている	87.6 (-2.7)	<u>100</u> <u>(+8.7)</u>	88.9 (+3.4)	87.5 (+3.4)
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	81.3 (-5.4)	<u>85.7</u> <u>(-4.1)</u>	100 (+14.5)	75.0 (-8.0)
教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業を1クラス当たり、週3回以上行った	99.5 (+8.7)	<u>100</u> <u>(+6.2)</u>	88.9 (-7.0)	75.0 (-18.7)
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3回以上活用した	75.0 (+4.1)	<u>78.6</u> <u>(-4.5)</u>	44.4 (-16.4)	<u>62.5</u> <u>(-14.1)</u>

① 児童生徒質問調査の「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標をもっている」について

「自分には良いところがある」について、小学校は肯定率が R5：73.9%⇒R6：76.3%で前回調査を上回ったが、県との差は若干広がっている。中学校は肯定率が R5：85.2%⇒R6：83.1%で前回調査を下回り、県との差も前回調査を下回っている。児童生徒のよさを評価する営みを地域や家庭とともに推進していく必要がある。

「将来の夢や目標をもっている」について、小学校は肯定率が R5：73.9%⇒R6：79.8%と前回調査を上回り、県との差も R5：-4.8%⇒R6：-2.1%と縮小した。中学校は肯定率が R5：66.5%⇒R6：67.3%と前回調査を上回り、県との差も R5：-0.1%⇒R6：+1.6%と上回った。

小中学校ともに改善傾向にあることから、これまでも行っている学級活動をはじめとした、努力すべきことや将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を充実させていく。

② メディア接触（デジタル）について

「1日当たり2時間以上のテレビゲームを行っている」については、令和4年度の肯定率と比較して小学校が58.3%⇒56.6%、中学校が51.6%⇒44.2%と改善傾向にある。しかしながら、「1日当たり2時間以上のSNSや動画視聴をする」については、令和4年度の肯定率と比較して小学校が32.7%⇒35.6%、中学校が45.6%⇒53.6%と増加しており、県との差も広がっている。

小中連携教育で取り組んでいる、児童生徒自身による家庭生活における時間コントロール能力育成の取組を、家庭学習への取組とも併せて強化していく必要がある。

③ 家庭学習について

「1時間以上勉強をする」について、小学校の肯定率は R5 : 50.5%⇒R6 : 47.3%で前回調査を下回り、県との差も R5 : -3.4%⇒R6 : -4.4%と若干広がった。中学校の肯定率は R5 : 46.7%⇒R6 : 47.0%で前回調査を若干上回り、県との差も R4 : -5.5%⇒R6 : -4.0%と縮小した。

小中連携教育におけるメディア接触に関する取組とも連動させながら、授業と関連付けた家庭学習内容を工夫していくとともに、児童生徒が家庭学習時間を意識した取組を行うことができるように取組を工夫していく必要がある。

④ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

児童生徒質問調査の「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」について、小学校の肯定率は R5 : 66.6%⇒R6 : 73.2%と前回調査を上回り、県との差は R5 : -7.4%⇒R6 : -7.3%とほぼ同程度であった。中学校の肯定率は R5 : 77.0%⇒R6 : 78.3%と前回調査を上回り、県との差は R5 : -3.6%⇒R6 : -4.4%と広がった。児童生徒の肯定率が伸びてきていることは、学校質問調査における同内容の肯定率においても小学校 92.8%、中学校 75.0%で比較的高く、県の肯定率も上回っていることから、学校における授業改善の取組が組織的に行われている成果であると捉えている。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできている」について、肯定率は小学校 R5 : 71.8%⇒R6 : 79.5%、中学校は R5 : 80.7%⇒R6 : 87.2%で前回調査を上回った。県との差は、小学校は前年度とほぼ同程度であるが、中学校においては上回っている。

以上の2項目については、市授業改善プラン「子どもの声でつくる授業」の重点項目としており、各学校における授業改善の取組が進んできていることがうかがえる。この授業改善を支える教員の研修状況についての学校質問調査項目では、個々の教員の校外における研究会等への参加は小中学校ともに前年度を上回っているが、校内研修の実施は下回っている。校内における組織的な研修の実施及びその充実が必要である。

⑤ 教科の勉強が好きな児童生徒の割合について

児童生徒質問調査における国語についての肯定率は、小学校 R5 : 61.2%⇒R6 : 48.9%、中学校 R5 : 67.6%⇒R6 : 63.5%と前回調査を下回った。県との差も小学校は R5 : +1.3%⇒R6 : -10.5%と差がひろがった。中学校は R5 : +7.1%⇒R6 : +0.3%となったが、若干ではあるが県の肯定率を上回っている。

小学校の算数についての肯定率は、R5 : 50.8%⇒R6 : 55.2%、県との差は-3.6⇒+0.1と改善が認められる。中学校の数学の肯定率は R5 : 57.4%⇒R6 : 44.5%、県との差は R5 : -0.9%⇒R6 : -11.3%と前回調査を下回った。

教科の勉強が好きと思える児童生徒の育成に向かい、基礎的な知識を定着させる取組とともに、個々の課題意識を大切にした複線型の授業を構想していくことが必要である。

⑥ 授業でのPC・タブレット端末などのICT機器活用について

児童生徒質問調査「授業における週3回以上のタブレット端末などのICT機器活用」についての肯定率は小学校 R5 : 51.7%⇒R6 : 31.2%で前回調査を下回り、県との差は R5 : +7.8⇒R6 : -14.7%と広がった。中学校の肯定率は R5 : 9.1%⇒R6 : 34.0%、県との差は R5 : -24.7⇒R6 : -6.0%と改善をしている。令和6年度の学校質問紙の同様な項目では、小学校の肯定率は 78.6%、中学校は 62.5%であり、児童生徒との意識の差が認められる。このことは、各学級における授業での活用状況が十分に把握できていなかったことが要因ではないかと考えている。全ての教員が等しく授業においてタブレット端末などのICT機器を活用した授業を進めていくための学校体制づくりが必要である。

4 今後の取組の方向性について

(1) 「知識・技能」の確かな定着への取組の継続

1 単位時間や内容のまとまりの中で、習得した知識・技能を活用する活動をより多く設定し、知識・技能の定着を図るための授業改善を行う。

また、各学校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、タブレットドリル（AI機能搭載のタブドリ Live）の活用、指導・支援が必要な児童生徒への指導の時間確保、家庭学習の工夫等）は、今後も継続していく。

(2) 「対話的で深い学び」への取組及び「要約学習」の推進

「主体的・対話的で深い学び」に関する児童生徒質問調査結果及び学校質問調査結果からは、授業改善が進んでいることがうかがえる。しかしながら、これまでも浜田市児童生徒の課題としてきた「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現（言葉や文章、式、図、音声言語など）する力」については、依然解決できていない。

このことは、「対話的で深い学び」の在り方に課題があると捉えている。具体的には、活発な話し合いは行われるようになってきているが、そのことが、個々の児童生徒の深い学びにつながっていないのではないかということである。深い学びに向かうためには、習得した知識と知識がつながって納得をしたり、習得したいくつかの知識（情報）を関連付けながら考えて自己の考えを導き出して表現し考えを練り上げたりしていくことが必要である。このことに向かって、各学校で進めている「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための取組を継続していくとともに、授業構想段階から指導主事に関わるなどの授業づくりへの支援を充実させていく。

また、算数・数学アドバイザー（環太平洋大学 前田一誠教授）から指導を受けている「たくさんやる」について指定校の取組に併せて情報提供し、各学校に浸透させていく。この「たくさんやる」は他教科の指導にも生かすことができるうえに、次に挙げる「要約学習」にも共通する考え方である。

「要約学習」は、本年度より導入している読解力育成のための手法である。指定校の取組を紹介しながら広げていく。この「要約学習」は、多くの情報の中から問題場面の状況を把握したり、そこから問題を見いだしたりすること、多くの情報から課題解決のために必要な情報をキーワードとして取り出し、関連する内容を関連図として捉えて考え、表現する力を育成していくために有効な手法であると捉えている。

(3) 「習熟度別学習」や「複線型授業」への取組

児童生徒の正答率分布状況を踏まえると、「習熟度別学習」が必要である。学級数や担当教科の教員数等において実施が難しい学校もあるが、実施方法を工夫しながら取り入れていくように働きかけていく。

また、学習課題解決のための取組方法を児童生徒が自己の能力や関心度等によって自己決定をしながら学んでいく「複線型授業」への取組を推進していく。この複線型授業においては、タブレット端末などのICT機器を活用することで、個々の児童生徒の学びへの支援や個々の学びを共有し協働的な課題解決を生み出していくことに有効に機能する。実践例を学力向上推進室だより等で情報発信することにより、タブレット端末などのICT機器活用も含めて取組を広げていく。

(4) 「夢や目標をもって取り組む指導（キャリア教育）」「学級経営」の充実

市教育委員会が推進している授業改善プラン「子どもの声でつくる授業」を実現していくには、「落ち着いて安心して学習に向かえる環境・学級づくり」や「夢や目標をもって取り組む指導」等の確実な積み重ねが重要となる。安心して学習に向かえる環境・学級づくりについては、「なすことによって学ぶ」を方法原理とする特別活動、なかでも学級活動の取組が大切となる。生徒指導担当指導主事とも連携を図り、各学校の取組を支援していく。